

老老介護

年若い母親を息子が殺害するという痛ましい事件が相次いでいる。

先月29日には山梨で、無職の教野一(64)が、同居する母のきよのさん(89)の胸を圧迫するなどして殺害。同30日には福岡で、住職の畠山裕行(61)が、やはり同居する母のサツキさん(85)を登山用ナイフで刺殺した。畠山は取り調べに対し、「目ごろ口うるさく言われていた」な

60代息子と80代母の組み合わせが危険

どと供述しているとい

「60代の息子と80代の母親という老老介護の組み合わせが、最も危ない。今後こうした事件は増えていくでしょう」

そう話すのは、全国介護者支援協議会理事長の上原喜光氏だ。「60代になって定年退職する。仕事人間だった男性ほど、家において護が難しくなる。きつても他にやることなく、汚くなります。息のか、上原氏のアドバ



悲劇を避ける3カ条

い。母親の世話にのめり込みやすいのです。感情が芽生えていくのです」

ある日突然、それが「ドカンッ」と爆発するのだ。母親の世話に取りつかれ、夫夫婦関係をなおざりに。熟年離婚に至る男性も少なくない。予備軍である50代男性にも言

「仕事人間」は要注意
「60代になって定年退職する。仕事人間だった男性ほど、家において護が難しくなる。きつても他にやることなく、汚くなります。息のか、上原氏のアドバ

子のストレスはたまる一方「手を抜け、介護以外で、本人の自覚がないまま、SOSを出せ——」

悲劇を避ける3カ条です。介護も会社勤めと同じで、たまに手を抜かないと身が持たない。週に1、2回ヘルパーを頼んでもいいし、母親を寝かしつけてから飲みに行ってもいい。兄弟や飲み友達に、『母親がボケて大変だ』と愚痴をこぼせばいいのです。予備軍ではない」

母親と共倒れになる方が、よっぽど怖い。